

※本文内の( )内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

## ◎志願者数が多かった大学

### □志願者数最多は4年連続で大阪公立大

大学	2025年度			2024年度			志願者 増減数	志願者指数	
	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率		2025年度 ／ 2024年度	2024年度 ／ 2023年度
大阪公立大	2,444	14,157	5.8	2,447	14,323	5.9	-166	99	101
千葉大	2,047	11,914	5.8	2,069	10,803	5.2	+1,111	110	103
神戸大	2,324	10,394	4.5	2,301	10,156	4.4	+238	102	103
横浜国立大	1,353	9,637	7.1	1,346	8,597	6.4	+1,040	112	91
北海道大	2,430	9,406	3.9	2,432	9,482	3.9	-76	99	97
東京大	2,960	8,421	2.8	2,960	9,432	3.2	-1,011	89	101
京都大	2,597	8,077	3.1	2,643	8,206	3.1	-129	98	105
東京都立大	1,085	7,866	7.2	1,094	6,455	5.9	+1,411	122	97
九州大	2,236	7,286	3.3	2,238	7,540	3.4	-254	97	104
埼玉大	1,365	7,174	5.3	1,371	6,203	4.5	+971	116	99

上の表と右のグラフは、文部科学省発表の最終確定値で、大学全体の志願者数が多かった国公立大の上位10大学をまとめたものです。増減はそれぞれ5大学です。

上位3位までの大学は前年度と同一だった一方で、第7位の東京都立大、第10位の埼玉大はいずれも大幅増加で上位10大学に入りました。その結果、上位10大学中、5大学が南関東の大学で占められました。

2025年度入試で志願者数が最も多かったのは、4年連続で大阪公立大(99)でした。前期(99)、中期(99)、後期(98)といずれの日程でも微減でしたが、大学全体では3年連続して1万4千人を上回りました。なお、志願者数が減少するのは2022年度の大学統合以来はじめてです。

第2位の千葉大は、1,111人(110)の増加で、2010年度から16年連続で志願者数が1万人を上回りました。前期は771人(112)の増加、後期も340人(108)の増加でした。

第3位の神戸大は、238人(102)の微増で、志願者数は2年連続で1万人を上回りました。前期は68人(101)の微増、後期は170人(104)のやや増加でした。

第4位の横浜国立大(112)は、1,040人の増加でした。前期は367人(111)の増加、後期も673人(113)の増加でした。

第5位の北海道大は76人(99)の微減でした。前期は52人(101)の微増だった一方、後期は128人(97)のやや減少でした。

第6位の東京大は1,011人(89)の減少でした。文理別では、文科類が284人(92)の減少、理科類が727人(87)の減少で、全科類で減少しました。第1段階選抜基準変更への警戒感に共通テストの平均点上昇が加わり、出願を手控える層が増加したことが影響しました。

第7位の京都大は、129人(98)の微減でした。ただし、法で特色入試として実施していた後期廃止による減少で、前期のみでは277人(104)のやや増加で4年連続増加でした。

第8位の東京都立大は、1,411人(122)の大幅増加でした。前期は838人(119)の大幅増加、後期も573人(128)の大幅増加でした。

第9位の九州大は、254人(97)のやや減少でした。前期は51人(99)の微減、後期は203人(92)の減少でした。

第10位の埼玉大は、971人(116)の大幅増加で、志願者数は11年ぶりに7千人を上回りました。前期は162人(106)のやや増加、後期は809人(123)の大幅増加と、特に後期での増加が目立ちました。

